

# 9課

## 和解と希望

2月28日

安息日午後

2月21日

暗証聖句

神はわたしたちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされた。それは、わたしたちが、彼にあって神の義となるためなのである。(Ⅱコリント 5:21、口語訳)

罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪となさいました。わたしたちはその方によって神の義を得ることができたのです。(Ⅱコリント 5:21、新共同訳)

今週の聖句

コロサイ 1:20～29、エフェソ (エペソ) 5:27、エフェソ (エペソ) 3:17、ローマ 8:18、エフェソ (エペソ) 1:7～10、エフェソ (エペソ) 3:3～6、箴言 14:12

今週のテーマ

パウロは、コロサイ1:20ではっきりと強調された和解という主題(8課の木曜日参照)を続けて論じます。その聖句では、和解の宇宙的広がりについて説明しましたが、次の節からは、和解が個人的で個別的なものになります。十字架上の死を通して、イエスはすべての人、すべてのもの、特に罪によって神の命から疎外されていた人間との和解を成し遂げられました。今や人間は、信仰を通して神と和解することができます。

「今週の聖句」の中には、個人の和解の過程が詳しく説明されています。宇宙的領域と同様に、それはキリストの死を通して起こります。個人レベルでは、十字架は受動的な象徴ではなく、能動的な現実となり、人々が福音を聞き、栄光の希望なるキリストご自身を受け入れるにつれて、神の愛が人々を変えていきます。

パウロはまた、「世の初めから代々にわたって隠されていた、秘められた計画」[口語訳「奥義は、代々にわたってこの世から隠されていた(こと)」](コロ1:26)についても語っています。この秘められた計画(奥義)とは、何でしょうか。個人と宇宙にとって、どのような意味を持つのでしょうか。この「秘められた計画」[口語訳「奥義」]は、パウロが熱心に宣べ伝えた福音と、どのように関係しているのでしょうか。

### コロ 1:20～29 (新共同訳)

1:20 その十字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自身と和解させられました。

1:21 あなたがたは、以前は神から離れ、悪い行いによって心の中で神に敵対していました。

1:22 しかし今や、神は御子の肉の体において、その死によってあなたがたと和解し、御自身の前に聖なる者、きずのない者、とがめるところのない者としてくださいました。

1:23 ただ、揺るぐことなく信仰に踏みとどまり、あなたがたが聞いた福音の希望から離れてはなりません。この福音は、世界中至るところの人々に宣べ伝えられており、わたしパウロは、それに仕える者とされました。

1:24 今やわたしは、あなたがたのために苦しむことを喜びとし、キリストの体である教会のために、キリストの苦しみの欠けたところを身をもって満たしています。

1:25 神は御言葉をあなたがたに余すところなく伝えるという務めをわたしにお与えになり、この務めのために、わたしは教会に仕える者となりました。

1:26 世の初めから代々にわたって隠されていた、秘められた計画が、今や、神の聖なる者たちに明らかにされたのです。

1:27 この秘められた計画が異邦人にとってどれほど栄光に満ちたものであるかを、神は彼らに知らせようとされました。その計画とは、あなたがたの内におられるキリスト、栄光の希望です。

1:28 このキリストを、わたしたちは宣べ伝えており、すべての人がキリストに結ばれて完全な者となるように、知恵を尽くしてすべての人を諭し、教えています。

1:29 このために、わたしは労苦しており、わたしの内に力強く働く、キリスト

### コロ 1:20～29 (口語訳)

1:20 そして、その十字架の血によって平和をつくり、万物、すなわち、地にあるもの、天にあるものを、ことごとく、彼によってご自身と和解させて下さったのである。

1:21 あなたがたも、かつては悪い行いをして神から離れ、心の中で神に敵対していた。

1:22 しかし今では、御子はその肉のからだにより、その死をとおして、あなたがたを神と和解させ、あなたがたを聖なる、傷のない、責められるところのない者として、みまえに立たせて下さったのである。

1:23 ただし、あなたがたは、ゆるぐことがなく、しっかりと信仰にふみとどまり、すでに聞いている福音の望みから移り行くことのないようにすべきである。この福音は、天の下にあるすべての造られたものに対して宣べ伝えられたものであって、それにこのパウロが奉仕しているのである。

1:24 今わたしは、あなたがたのための苦難を喜んで受けており、キリストのからだなる教会のために、キリストの苦しみのなお足りないところを、わたしの肉体をもって補っている。

1:25 わたしは、神の言を告げひろめる務を、あなたがたのために神から与えられているが、そのために教会に奉仕する者になっているのである。

1:26 その言の奥義は、代々にわたってこの世から隠されていたが、今や神の聖徒たちに明らかにされたのである。

1:27 神は彼らに、異邦人の受くべきこの奥義が、いかに栄光に富んだものであるかを、知らせようとされたのである。この奥義は、あなたがたのうちにいますキリストであり、栄光の望みである。

1:28 わたしたちはこのキリストを宣べ伝え、知恵をつくしてすべての人を訓戒し、また、すべての人を教えている。それは、彼らがキリストにあって全き者として立つようになるためである。

1:29 わたしはこのために、わたしのうちに力強く働いておられるかたの力によ

の力によって闘っています。

り、苦闘しながら努力しているのである。

日曜日 2月22日 悪い行いからの和解

問1 コロサイ1:21、22を読んでください。パウロは、疎外と敵対について言及することで、何を示唆しているのでしょうか。そして、キリストの死がもたらす期待される最終的な結果は何ですか(エフェ[エペ]5:27も参照)。

パウロは常に、少なくともキリストの義から離れている人間を、悲観的に説明してきました。それから2000年近く経った今日、誰がその考えに異を唱えられるでしょうか。かつて、ある人はこう言いました。「キリスト教の教理の中で、信仰によって受け入れる必要のない唯一のものは、人間の罪深さだ」

しかし、罪が入り込んで以来、神は、私たちがどんなに悪くとも、自ら進んで私たちをご自分と和解させようとしてくれました。つまり、初めから神は、罪の問題を解決するために、たとえ解決策が十字架でのご自身の死によってしか見いだせないとしても、働いてくれました。

エデンの園で、神は創造の傑作であるアダムに、「どこにいるのか」[口語訳「あなたはどこにいるのか」](創3:9)と呼びかけられました。そして今日も、失われた1匹の羊、つまり私たちを探し続けておられます。神は私たちを1人ずつ探し出されます。神は、創世記3:15の原福音の約束に従って、私たちとサタンの間に敵意を置き、私たちを見いだすという完璧な計画を持っておられるのです。

福音は時として、複雑かつ理論的になりすぎて、21世紀の生活にほとんど意味を持たないことがあります。しかし、実際には非常に単純で明快なものです。

福音には三つの部分があります。

第一に、私たちは自分自身を救うことができないので、イエスが私たちの罪のために[地上に]来られ、死なれました(ロマ5:6~8参照)。

第二に、信仰、悔い改め、バプテスマを通して、イエスの死を自分たちのものとして受け入れることで、私たちは義とされ、罪の有罪宣告から解放されます(ロマ5:9~11、6:6、7参照)。

第三に、私たちが今送っている人生は、キリストと結ばれ、キリストの再創造の力を経験し、キリストが私たちの内に生きておられることの結果です(Ⅱコリ 5:17~21、ガラ2:20参照)。

これらは、必ずしも個別の段階や出来事ではありません。私たちがイエスを自分の人生に受け入れる準備ができるや否や、すべてが一度に起こることもあります。そして、私たちが毎朝キリストに献身するたびに、日々新たにされていきます。私たち1人ひとりが人生でキリストの救いの働きをどう経験したかに関係なく、そ

の基礎は常にイエスの死にあります。私たちは常にそこに戻らなければなりません。

**【参考】英語テキストにある文**

**When you look at yourself, your character, and your innermost being, what does the sight tell you about your need of the Cross?**

あなた自身を見つめ、あなたの性格と心の奥底(本心)を見つめるとき、その光景は十字架の必要性についてあなたに何を教えてくれるでしょうか。

61

**コロ 1:20、21 (新共同訳)**

1:20 その十字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自分と和解させられました。

1:21 あなたがたは、以前は神から離れ、悪い行いによって心の中で神に敵対していました。

**エフェ 5:27 (新共同訳)**

5:27 しみやしわやそのたぐいのものは何一つない、聖なる、汚れのない、栄光に輝く教会を御自分の前に立たせるためでした。

**創 3:9~15 (新共同訳)**

3:9 なる神はアダムを呼ばれた。「どこにいるのか。」

3:10 彼は答えた。「あなたの足音が園の中に聞こえたので、恐ろしくなり、隠れております。わたしは裸ですから。」

3:11 神は言われた。「お前が裸であることを誰が告げたのか。取って食べるなど命じた木から食べたのか。」

3:12 アダムは答えた。「あなたがわたしと共にいるようにしてくださった女が、木から取って与えたので、食べました。」

3:13 主なる神は女に向かって言われた。「何とこのことをしたのか。」/女は答えた。「蛇がだましたので、食べてしまいました。」

3:14 主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は/あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で/呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわ

**コロ 1:20、21 (口語訳)**

1:20 そして、その十字架の血によって平和をつくり、万物、すなわち、地にあるもの、天にあるものを、ことごとく、彼によってご自分と和解させて下さったのである。

1:21 あなたがたも、かつては悪い行いをして神から離れ、心の中で神に敵対していた。

**エペ 5:27 (口語訳)**

5:27 また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである。

**創 3:9~15 (口語訳)**

3:9 主なる神は人に呼びかけて言われた、「あなたはどこにいるのか。」

3:10 彼は答えた、「園の中であなたの歩まれる音を聞き、わたしは裸だったので、恐れて身を隠したのです。」

3:11 神は言われた、「あなたが裸であることを、だれが知らせたのか。食べるなど、命じておいた木から、あなたは取って食べたのか。」

3:12 人は答えた、「わたしと一緒にしてくださったあの女が、木から取ってくれたので、わたしは食べたのです。」

3:13 そこで主なる神は女に言われた、「あなたは、なんということをしたのです。」女は答えた、「へびがわたしをだましたのです。それでわたしは食べました。」

3:14 主なる神はへびに言われた、「おまえは、この事を、したので、すべての家畜、野のすべての獣のうち、最もろわれる。おまえは腹で、這いあるき、一生、

り、塵を食らう。

3:15 お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に/わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き/お前は彼のかかとを砕く。」

**ロマ 5:6～11 (新共同訳)**

5:6 実にキリストは、わたしたちがまだ弱かったころ、定められた時に、不信心な者のために死んでくださった。

5:7 正しい人のために死ぬ者はほとんどいません。善い人のために命を惜しまない者ならいるかもしれません。

5:8 しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。

5:9 それで今や、わたしたちはキリストの血によって義とされたのですから、キリストによって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。

5:10 敵であったときでさえ、御子の死によって神と和解させていただいたのであれば、和解させていただいた今は、御子の命によって救われるのはなおさらです。

5:11 それだけでなく、わたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちは神を誇りとしています。今やこのキリストを通して和解させていただいたからです。

**ロマ 6:6、7 (新共同訳)**

6:6 わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。

6:7 死んだ者は、罪から解放されています。

**Ⅱコリ 5:17～21 (新共同訳)**

5:17 だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。

5:18 これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。

ちりを食べるであろう。

3:15 わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう。」

**ロマ 5:6～11 (口語訳)**

5:6 わたしたちがまだ弱かったころ、キリストは、時いたって、不信心な者たちのために死んで下さったのである。

5:7 正しい人のために死ぬ者は、ほとんどいないであろう。善人のためには、進んで死ぬ者もあるいはいるであろう。

5:8 しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。

5:9 わたしたちは、キリストの血によって今は義とされているのだから、なおさら、彼によって神の怒りから救われるであろう。

5:10 もし、わたしたちが敵であった時でさえ、御子の死によって神との和解を受けたとすれば、和解を受けている今は、なおさら、彼のいのちによって救われるであろう。

5:11 そればかりではなく、わたしたちは、今や和解を得させて下さったわたしたちの主イエス・キリストによって、神を喜ぶのである。

**ロマ 6:6、7 (口語訳)**

6:6 わたしたちは、この事を知っている。わたしたちの内の古き人はキリストと共に十字架につけられた。それは、この罪のからだが減び、わたしたちがもはや、罪の奴隷となることがないためである。

6:7 それは、すでに死んだ者は、罪から解放されているからである

**Ⅱコリ 5:17～21 (口語訳)**

5:17 だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。

5:18 しかし、すべてこれらの事は、神から出ている。神はキリストによって、わたしたちをご自分に和解させ、かつ和解の務をわたしたちに授けて下さった。

5:19 つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。

5:20 ですから、神がわたしたちを通して勧めておられるので、わたしたちはキリストの使者の務めを果たしています。キリストに代わってお願いします。神と和解させていただきなさい。

5:21 罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪となさいました。わたしたちはその方によって神の義を得ることができたのです。

**ガラ 2:20 (新共同訳)**

2:20 生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。

5:19 すなわち、神はキリストにおいて世をご自分に和解させ、その罪過の責任をこれに負わせることをしないで、わたしたちに和解の福音をゆだねられたのである。

5:20 神がわたしたちをとおして勧めをなさるのであるから、わたしたちはキリストの使者なのである。そこで、キリストに代って願う、神の和解を受けなさい。

5:21 神はわたしたちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされた。それは、わたしたちが、彼にあって神の義となるためなのである。

**ガラ 2:20 (口語訳)**

2:20 生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである。

## 月曜日 2月23日 「もし」信仰に踏みとどまるなら

問2 コロサイ1:23(口語訳)を読んでください。パウロが言うところの、「ゆるぐことなく、しっかり」信仰に踏みとどまるとは、どういう意味だと思いますか(コロ2:5、エフェ(エペ)3:17も参照)。

ギリシア語には4種類の「もし」[“if”]という表現があり、それぞれニュアンスが異なります。コロサイ1:23の冒頭にある「もし」(訳注\*)は、条件が満たされていることを前提としています。つまりパウロは、コロサイの信徒が確かに信仰に踏みとどまるだろうという思いで、励ましているのです。パウロがすぐに伝えているように、彼はすでに彼らの固い信仰の証拠を見えています(コロ2:5)。しかしながら、彼らの希望は依然として条件付きであり、彼らが歩みだした信仰の道を断固として続けるかどうかにかかっているのです。

この断固として続けるというのが、「踏みとどまる」[口語訳「ふみとどま(る)」](コロ1:23)と訳されているギリシア語の意味です。この言葉は、姦通の現場で捕まった女をどうすべきか、イエスにしつこく問い続けた律法学者やファリサイ派の人々(パリサイ人)について使われています(ヨハ8:7)。また、ロデ(口語訳:ロダ)がペトロ(ペテロ)の声に気づいたものの、ほかの人に告げるために戸を開けないで家の中に駆け込んだあとも、ペトロ(ペテロ)が戸をたたき続けたことにも使われています

(使徒 12:16)。また、パウロもこの言葉を用いて、自分が授けた教理と実践的な教えをしっかりと守り続けるよう、テモテに勧めています (I テモ 4:16)。ここでのパウロの意味も、信者全般に当てはまるという点を除けば、同様です。

来週の研究で見ると、パウロは、コロサイの信徒が福音によって与えられた希望を固く守り続ける代わりに、人間的な救いの方法を追い求めるようになるのではないかと心配しています (コロ 2:8, 20~22 参照)。「ゆるぐことがなく」(コロ 1:23、口語訳)という言葉は、神の言葉に基づく信仰と愛の堅固な土台を築いたことを意味します (マタ 7:25、エフェ[エペ] 2:20, 3:17 参照)。

この考えに関連しているのが「しっかりと」と訳されているギリシア語で、これは不動の構造物を指しており、ひいては「福音の希望から離れ」[口語訳「福音の望みから移り行くことの」](コロ 1:23)ないクリスチャンを指しています。同じ言葉が I コリント 15:58 にも使われています。「動かされないようにしっかりと立ち、主の業に常に励みなさい。主に結ばれているならば自分たちの苦勞が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずです」[口語訳「堅く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの苦勞がむだになることはない、あなたがたは知っているからである」]

「一度救われたら、永遠に救われている」という通説に反して、パウロはまったく異なることを言っているのです。

訳注\*原語や英訳の聖書では、コロサイ 1:23 が「もし(if)」という言葉で始まっている。

### 【参考】 Colossians 1:23

if indeed you continue in the faith, grounded and steadfast, and are not moved away from the hope of the gospel which you heard, which was preached to every creature under heaven, of which I, Paul, became a minister. (NKJV)

if indeed you continue in the faith, stable and steadfast, not shifting from the hope of the gospel that you heard, which has been proclaimed in all creation under heaven, and of which I, Paul, became a minister. (ESV)

if you continue in your faith, established and firm, and do not move from the hope held out in the gospel. This is the gospel that you heard and that has been proclaimed to every creature under heaven, and of which I, Paul, have become a servant. (NIV)

### 【参考】英語テキストにある続きの文

What has been your experience regarding the importance of continuing to exercise faith? That is, why must you always make a conscious choice to do that? What will happen if you don't?

信仰を保ち続けることの重要性についてのあなたの経験はどのようなものでしたか。つまり、なぜ常に意識的に信仰を保ち続ける選択をしなければならないのでしょうか。そうしなければ、どうなるのでしょうか。

### コロ 1:23 (新共同訳)

1:23 ただ、揺るぐことなく信仰に踏みとどまり、あなたがたが聞いた福音の希望

### コロ 1:23 (口語訳)

1:23 ただし、あなたがたは、ゆるぐことがなく、しっかりと信仰にふみとどまり、

から離れてはなりません。この福音は、世界中至るところの人々に宣べ伝えられており、わたしパウロは、それに仕える者とされました。

**コロ 2:5 (新共同訳)**

2:5 わたしは体では離れていても、霊ではあなたがたと共にいて、あなたがたの正しい秩序と、キリストに対する固い信仰とを見て喜んでいきます。

**エフェ 3:17 (新共同訳)**

3:17 信仰によってあなたがたの心の内にキリストを住ませ、あなたがたを愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださるよう。

**ヨハ 8:7 (新共同訳)**

8:7 しかし、彼らがしつこく問い続けるので、イエスは身を起して言われた。「あなたたちの中で罪を犯したことはない者が、まず、この女に石を投げなさい。」

**使徒 12:16 (新共同訳)**

12:16 しかし、ペトロは戸をたたき続けた。彼らが開けてみると、そこにペトロがいたので非常に驚いた。

**1テモ 4:16 (新共同訳)**

4:16 自分自身と教えとに気を配りなさい。以上のことをしっかりと守りなさい。そうすれば、あなたは自分自身と、あなたの言葉を聞く人々とを救うことになり

**コロ 2:8 (新共同訳)**

2:8 人間の言い伝えにすぎない哲学、つまり、むなしいだまし事によって人のとりこにされないように気をつけなさい。それは、世を支配する霊に従っており、キリストに従うものではありません。

**コロ 2:20~22 (新共同訳)**

2:20 あなたがたは、キリストと共に死んで、世を支配する諸霊とは何の関係もないのなら、なぜ、まだ世に属しているかのように生き、

2:21 「手をつけるな。味わうな。触れるな」などという戒律に縛られているのですか。

2:22 これらはみな、使えば無くなってしまふもの、人の規則や教えによるもので

すでに聞いている福音の望みから移り行くことのないようにすべきである。この福音は、天の下にあるすべての造られたものに対して宣べ伝えられたものであって、それにこのパウロが奉仕しているのである。

**コロ 2:5 (口語訳)**

2:5 たとい、わたしは肉体においては離れていても、霊においてはあなたがたと一緒にいて、あなたがたの秩序正しい様子とキリストに対するあなたがたの強固な信仰とを見て、喜んでい

**エペ 3:17 (口語訳)**

3:17 また、信仰によって、キリストがあなたがたの心のうちに住み、あなたがたが愛に根ざし愛を基として生活することにより、

**ヨハ 8:7 (口語訳)**

8:7 彼らが問い続けるので、イエスは身を起して彼らに言われた、「あなたがたの中で罪のない者が、まずこの女に石を投げつけるがよい」。

**使徒 12:16 (口語訳)**

12:16 しかし、ペトロが門をたたきつづけるので、彼らがあげると、そこにペトロがいたのでを見て驚いた。

**1テモ 4:16 (口語訳)**

4:16 自分のことと教のことに気をつけ、それらを常に努めなさい。そうすれば、あなたは、自分自身とあなたの教を聞く者たちとを、救うことになる。

**コロ 2:8 (口語訳)**

2:8 あなたがたは、むなしいだましごとの哲学で、人のとりこにされないように、気をつけなさい。それはキリストに従わず、世のもろもろの霊力に従う人間の言伝えに基くものにすぎない。

**コロ 2:20~22 (口語訳)**

2:20 もしあなたがたが、キリストと共に死んで世のもろもろの霊力から離れたのなら、なぜ、なおこの世に生きているもののように、

2:21 「さわるな、味わうな、触れるな」などという規定に縛られているのか。

2:22 これらは皆、使えば尽きてしまうもの、人間の規定や教によっているもので

す。

マタ 7:25 (新共同訳)

7:25 雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲っても、倒れなかった。岩を土台としていたからである。

エフェ 2:20 (新共同訳)

2:20 使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト・イエス御自身であり、

エフェ 3:17 (新共同訳)

3:17 信仰によってあなたがたの心の内にキリストを住ませ、あなたがたを愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださるよう。

I コリ 15:58 (新共同訳)

15:58 わたしの愛する兄弟たち、こういうわけですから、動かされないようにしっかりと立ち、主の業に常に励みなさい。主に結ばれているならば自分たちの苦勞が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはず。

ある。

マタ 7:25 (口語訳)

7:25 雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけても、倒れることはない。岩を土台としているからである。

エペ 2:20 (口語訳)

2:20 またあなたがたは、使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。

エペ 3:17 (口語訳)

3:17 また、信仰によって、キリストがあなたがたの心のうちに住み、あなたがたが愛に根ざし愛を基として生活することにより、

I コリ 15:58 (口語訳)

15:58 だから、愛する兄弟たちよ。堅く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの苦勞がむだになることはない、あなたがたは知っているからである。

火曜日

2月24日

神の永遠の計画

問3 コロサイ 1:24、25 を読んでください。パウロはキリストのために苦しんだことについて、何と言っていますか。

パウロがコロサイの信徒への手紙(コロサイ人への手紙)を書いたのは、ローマでの自宅軟禁中のことでしたが、おそらく彼の最大の苦しみは、かつてのように町から町へ、家から家へと精力的に働けなかったことでしょう(使徒 20:20)。キリストが前もって警告されたこれらの艱難(苦難)は(マタ 24:9、ヨハ 16:33)、「将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足り」[口語訳「やがてわたしたちに現されようとする栄光に比べると、言うに足り」](ロマ 8:18)ません。これがより大きな視点です。パウロはフィリピ(ピリピ)のクリスチャンに書き送ったように、今度はコロサイの信徒に宛てて、彼らのために益となる自分の苦しみを喜びとしてしていると書いています(コロ 1:24)。

パウロは牢獄にいるかもしれませんが、「神の言葉はつながれていません」[口語訳「神の言はつながれてはいない」](IIテモ 2:9)。パウロがこの監禁状態にあった間に、フィリピ(ピリピ)やエフェソの信徒への手紙(エペソ人への手紙)とフィレモン(ピレモン)への手紙も書かれ、また釈放後、神はパウロに、Iテモテへの手紙とテトスへの手

紙にある重要な勧告を記すよう、靈感を与えられました。そして、ローマの牢獄で最後の投獄生活を送っていた間に、彼はⅡテモテへの手紙を書きました。要するに、この最後の数年の間に、パウロは、おそらくヘブライ(ハブル)人への手紙も含む、新約聖書のかかなりの部分を書く機会を得たのです。

神の永遠の計画は、これらすべてとそれ以上のことを予見していました。パウロがコロサイ1:25で用い「務め」(口語訳「務」)と訳されているギリシア語は、一般的に「管理」(“stewardship”)と訳される「オイコノミア」です。この言葉は、限定的な意味だと(例えば、Ⅰテモ1:4)、「物事を秩序立てる神の方法」(ルーク・T・ジョンソン『Ⅰ・Ⅱテモテへの手紙』164ページ、英文 “God’s way of ordering things”)を指します。これにはパウロの使徒職も含まれるでしょうが、より広い意味では、救済計画において神が定められたあらゆるものが含まれます。パウロやそのほかの使徒たち、そしてモーセを含む旧約聖書の預言者たち(エフェ[エペ]2:20、3:5)の働きは、「神は御言葉を……余すところなく伝える」[口語訳「神の言を告げひろめる」](コロ1:25)のために意図されたものであり、すべてこの神の計画とつながっていました。

この主題については、明日の研究でさらに詳しく見ていきます。しかしこの時点で、パウロが自分の働きを、「天地創造の時から(前に)」[口語訳「世の初めから」「天地の造られる前から」](マタ13:35、エフェ[エペ]1:4)始まっていた、はるかに大きく長期的な神の計画のほんの一部にすぎないことを認識していたことに気づくことは、有益です。

#### 【参考】英語テキストにある続きの文

Think about your own life. How might the decisions you make (big and small) fit within God’s larger plan? Can we really know whether a decision is actually “small”? How might it have larger ramifications that will become apparent only later?

あなた自身の人生について考えてみてください。あなたが下す決断(大小問わず)は、神の壮大な計画の中でどのように位置づけられるでしょうか。決断が実際に「小さい」ものなのかどうか、私たちは本当にわかるのでしょうか。その決断が、後になって初めて明らかになるような、もっと大きな影響を及ぼす可能性はどの程度あるでしょうか。

63

#### コロ1:24、25 (新共同訳)

1:24 今やわたしは、あなたがたのために苦しむことを喜びとし、キリストの体である教会のために、キリストの苦しみの欠けたところを身をもって満たしています。

1:25 神は御言葉をあなたがたに余すところなく伝えるという務めをわたしにお与えになり、この務めのために、わたしは教会に仕える者となりました。

#### コロ1:24、25 (口語訳)

1:24 今わたしは、あなたがたのための苦難を喜んで受けており、キリストのからだなる教会のために、キリストの苦しみのなお足りないところを、わたしの肉体をもって補っている。

1:25 わたしは、神の言を告げひろめる務を、あなたがたのために神から与えられているが、そのために教会に奉仕する者になっているのである。

**使徒 20:20 (新共同訳)**

20:20 役に立つことは一つ残らず、公衆の面前でも方々の家でも、あなたがたに伝え、また教えてきました。

**マタ 24:9 (新共同訳)**

24:9 そのとき、あなたがたは苦しみを受け、殺される。また、わたしの名のために、あなたがたはあらゆる民に憎まれる。

**ヨハ 16:33 (新共同訳)**

16:33 これらのことを話したのは、あなたがたがわたしによって平和を得るためである。あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。」

**ロマ 8:18 (新共同訳)**

8:18 現在の苦しみに、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足りない」とわたしは思います。

**Ⅱテモ 2:9 (新共同訳)**

2:9 この福音のためにわたしは苦しみを受け、ついに犯罪人のように鎖につながれています。しかし、神の言葉はつながれていません。

**1テモ 1:4 (新共同訳)**

1:4 作り話や切りのない系図に心を奪われたりしないようにと。このような作り話や系図は、信仰による神の救いの計画の実現よりも、むしろ無意味な詮索を引き起こします。

**エフェ 2:20 (新共同訳)**

2:20 使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト・イエス御自身であり、

**エフェ 3:5 (新共同訳)**

3:5 この計画は、キリスト以前の時代には人の子らに知らされていませんでしたが、今や“霊”によって、キリストの聖なる使徒たちや預言者たちに啓示されました。

**マタ 13:35 (新共同訳)**

13:35 それは、預言者を通して言われていたことが実現するためであった。「わたしは口を開いてたとえを用い、天地創造の時から隠されていたことを告げる。」

**使徒 20:20 (口語訳)**

20:20 また、あなたがたの益になることは、公衆の前でも、また家々でも、すべてあまずとくなく話して聞かせ、また教え、

**マタ 24:9 (口語訳)**

24:9 そのとき人々は、あなたがたを苦しみにあわせ、また殺すであろう。またあなたがたは、わたしの名のゆえにすべての民に憎まれるであろう。

**ヨハ 16:33 (口語訳)**

16:33 これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」

**ロマ 8:18 (口語訳)**

8:18 わたしは思う。今のこの時の苦しみに、やがてわたしたちに現されようとする栄光に比べると、言うに足りない。

**Ⅱテモ 2:9 (口語訳)**

2:9 この福音のために、わたしは悪者のように苦しめられ、ついに鎖につながれるに至った。しかし、神の言はつながれてはいない。

**1テモ 1:4 (口語訳)**

1:4 作り話やはてしのない系図などに気をとられることもないように、命じなさい。そのようなことは信仰による神の務を果すものではなく、むしろ論議を引き起こさせるだけのものである。

**エペ 2:20 (口語訳)**

2:20 またあなたがたは、使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。

**エペ 3:5 (口語訳)**

3:5 この奥義は、いまは、御霊によって彼の聖なる使徒たちと預言者たちとに啓示されているが、前の時代には、人の子らに対して、そのように知らされてはいなかったのである。

**マタ 13:35 (口語訳)**

13:35 これは預言者によって言われたことが、成就するためである、「わたしは口を開いて譬を語り、世の初めから隠されていることを語り出そう」。

エフェ1:4 (新共同訳)

1:4 天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れのない者にしようと、キリストにおいてお選びになりました。

エペ1:4 (口語訳)

1:4 みまえにぎよく傷のない者となるようにと、天地の造られる前から、キリストにあってわたしたちを選び、

## 水曜日 2月25日 明らかにされた神の秘められた計画

※口語訳:明らかにされた神の奥義

問4 コロサイ1:26、27を読んでください。「秘められた計画」〔口語訳「奥義」〕について、パウロは二度語っています。どのような秘められた計画(奥義)でしょうか。

別の箇所で、パウロは「神の秘められた計画」〔口語訳「(神の)奥義」〕について言及しています。それは、「神がわたしたちに栄光を与えるために、世界の始まる前から定めておられ」〔口語訳「神が、わたしたちの受ける栄光のために、世の始まる前から、あらかじめ定めておかれ」〕(Iコリ2:7)、救済計画を通して明らかにされた神の永遠の目的です。ペトロ(ペテロ)はこの真理を、預言者たちが期待し、「天使たちも見て確かめたいと願っているもの」〔口語訳「御使たちも、うかがい見たいと願っている事」〕(Iペト1:10~12)だと言っています。それは、「天地創造の前から」〔口語訳「天地が造られる前から」〕(同1:20)考案され、「世々にわたって隠されていた」〔口語訳「長き世々にわたって、隠されていた」〕(ロマ16:25)ものです。しかし、キリストの生涯、死、復活を通して、この秘められた計画(奥義)は明らかにされました(IIコリ3:14)。

問5 神の秘められた計画(口語訳:神の奥義)に言及している次の聖句は、救済計画のさまざまな側面を、いかに明らかにしていますか。

- (1) エフェソ (エペソ) 1:7~10
- (2) エフェソ (エペソ) 3:3~6

最終的に、天と地の「あらゆるもの」がキリストのもとに完全に一つにされます。これがヨハネ17章におけるキリストの祈りの焦点でした。それがどのように実現するのかは謎でしたが、今や福音によって明らかにされました。

私たちの救いのために、なぜ神が天の貴重な宝であるイエスを与えるほど、私たちが愛してくださるのかは、永遠の研究課題でしょう。しかし、私たちは次のことを知っています。キリストは、「すべての人のために死んでくださった。その目的は、生きている人たちが、もはや自分自身のために生きるのではなく、自分たちのために死んで復活してくださった方のために生きることなのです」〔口語訳「すべての人のために死んだのは、生きている者がもはや自分のためにではなく、自分のために死

んでよみがえったかたのために、生きるためである」(Ⅱコリ 5:15)。その結果、キリストを信じるすべての人が福音を通して神の約束に等しくあずかり、教会という一つの体に集められています。

「あなたがたの内におられるキリスト」〔口語訳「あなたがたのうちにいますキリスト」〕(コロ 1:27)とは、信仰によってキリストが心に住まわれること(エフェ〔エペ〕3:17、ガラ 2:20と比較)を指します。キリストとのこの霊的な結びつきにより、信者は今でも、「共に天の王座に着(き)」〔口語訳「共に天上で座につ(き)」〕(エフェ〔エペ〕2:6)、「来るべき世の力」〔口語訳「きたるべき世の力」〕(ヘブ 6:5)を味わえます。

64

### コロ 1:26、27 (新共同訳)

1:26 世の初めから代々にわたって隠されていた、秘められた計画が、今や、神の聖なる者たちに明らかにされたのです。

1:27 この秘められた計画が異邦人にとってどれほど栄光に満ちたものであるかを、神は彼らに知らせようとされました。その計画とは、あなたがたの内におられるキリスト、栄光の希望です。

### Ⅰコリ 2:7 (新共同訳)

2:7 わたしたちが語るのには、隠されていた、神秘としての神の知恵であり、神がわたしたちに栄光を与えるために、世界の始まる前から決めておられたものです。

### Ⅰペト 1:10～12 (新共同訳)

1:10 この救いについては、あなたがたに与えられる恵みのことをあらかじめ語った預言者たちも、探求し、注意深く調べました。

1:11 預言者たちは、自分たちの内におられるキリストの霊が、キリストの苦難とそれに続く栄光についてあらかじめ証しされた際、それがだれを、あるいは、どの時期を指すのか調べたのです。

1:12 彼らは、それらのことが、自分たちのためではなく、あなたがたのためであるとの啓示を受けました。それらのことは、天から遣わされた聖霊に導かれて福音をあなたがたに告げ知らせた人たちが、今、あなたがたに告げ知らせており、天使たちも見て確かめたいと願っているものなのです。

### Ⅰペト 1:20 (新共同訳)

1:20 キリストは、天地創造の前からあら

### コロ 1:26、27 (口語訳)

1:26 その言の奥義は、代々にわたってこの世から隠されていたが、今や神の聖徒たちに明らかにされたのである。

1:27 神は彼らに、異邦人の受くべきこの奥義が、いかに栄光に富んだものであるかを、知らせようとされたのである。この奥義は、あなたがたのうちにいますキリストであり、栄光の望みである。

### Ⅰコリ 2:7 (口語訳)

2:7 むしろ、わたしたちが語るのには、隠された奥義としての神の知恵である。それは神が、わたしたちの受ける栄光のために、世の始まらぬ先から、あらかじめ決めておかれたものである。

### Ⅰペテ 1:10～12 (口語訳)

1:10 この救いについては、あなたがたに対する恵みのことを預言した預言者たちも、たずね求め、かつ、つがさに調べた。

1:11 彼らは、自分たちのうちにいますキリストの霊が、キリストの苦難とそれに続く栄光とを、あらかじめあかした時、それは、いつの時、どんな場合をさしたのかを、調べたのである。

1:12 そして、それらについて調べたのは、自分たちのためではなくて、あなたがたのための奉仕であることを示された。それらの事は、天からつかわされた聖霊に感じて福音をあなたがたに宣べ伝えた人々によって、今や、あなたがたに告げ知らされたのであるが、これは、御使たちも、うかがい見たいと願っている事である。

### Ⅰペテ 1:20 (口語訳)

1:20 キリストは、天地が造られる前から、

かじめ知られていましたが、この終わりの時代に、あなたがたのために現れてくださいました。

**ロマ 16:25 (新共同訳)**

16:25 神は、わたしの福音すなわちイエス・キリストについての宣教によって、あなたがたを強めることがおできになります。この福音は、世々にわたって隠されていた、秘められた計画を啓示するものです。

**II コリ 3:14 (新共同訳)**

3:14 しかし、彼らの考えは鈍くなってしまいました。今日に至るまで、古い契約が読まれる際に、この覆いは除かれずに掛かったままなのです。それはキリストにおいて取り除かれるものだからです。

**エフェ 1:7~10 (新共同訳)**

1:7 わたしたちはこの御子において、その血によって贖われ、罪を赦されました。これは、神の豊かな恵みによるものです。

1:8 神はこの恵みをわたしたちの上にあふれさせ、すべての知恵と理解とを与えて、

1:9 秘められた計画をわたしたちに知らせてくださいました。これは、前もってキリストにおいてお決めになった神の御心によるものです。

1:10 こうして、時が満ちるに及んで、救いの業が完成され、あらゆるものが、頭であるキリストのもとに一つにまとめられます。天にあるものも地にあるものもキリストのもとに一つにまとめられるのです。

**エフェ 3:3~6 (新共同訳)**

3:3 初めに手短かに書いたように、秘められた計画が啓示によってわたしに知らされました。

3:4 あなたがたは、それを読めば、キリストによって実現されるこの計画を、わたしがどのように理解しているかが分かると思います。

3:5 この計画は、キリスト以前の時代には人の子らに知らされていませんでしたが、今や“霊”によって、キリストの聖

あらかじめ知られていたのであるが、この終りの時に至って、あなたがたのために現れたのである。

**ロマ 16:25-26 (口語訳)**

16:25-26 願わくは、わたしの福音とイエス・キリストの宣教とにより、かつ、長き世々にわたって、隠されていたが、今やあらわされ、預言の書をとおして、永遠の神の命令に従い、信仰の従順に至らせるために、もろもろの国人に告げ知らされた奥義の啓示によって、あなたがたを力づけることのできるかた、

**II コリ 3:14 (口語訳)**

3:14 実際、彼らの思いは鈍くなっていて、今日に至るまで、彼らが古い契約を朗読する場合、その同じおおいが取り去られないままに残っている。それは、キリストにあってはじめて取り除かれるのである。

**エペ 1:7~10 (口語訳)**

1:7 わたしたちは、御子にあって、神の豊かな恵みのゆえに、その血によるあがない、すなわち、罪過のゆるしを受けたのである。

1:8 神はその恵みをさらに増し加えて、あらゆる知恵と悟りとをわたしたちに賜わり、

1:9 御旨の奥義を、自らあらかじめ定められた計画に従って、わたしたちに示して下さったのである。

1:10 それは、時の満ちるに及んで実現されるご計画にほかならない。それによって、神は天にあるもの地にあるものを、ことごとく、キリストにあって一つに帰せしめようとされたのである。

**エペ 3:3~6 (口語訳)**

3:3 すなわち、すでに簡単に書きおくれたように、わたしは啓示によって奥義を知らされたのである。

3:4 あなたがたはそれを読めば、キリストの奥義をわたしがどう理解しているかがわかる。

3:5 この奥義は、いまは、御霊によって彼の聖なる使徒たちと預言者たちとに啓示されているが、前の時代には、人の子ら

なる使徒たちや預言者たちに啓示されました。

3:6 すなわち、異邦人が福音によってキリスト・イエスにおいて、約束されたものをわたしたちと一緒に受け継ぐ者、同じ体に属する者、同じ約束にあずかる者となるということです。

※ヨハネ 17 章はお手持ちの聖書をお読みください。

Ⅱコリ 5:15 (新共同訳)

5:15 その一人の方はすべての人のために死んでくださった。その目的は、生きている人たちが、もはや自分自身のために生きるのではなく、自分たちのために死んで復活してくださった方のために生きることなのです。

エフェ 3:17 (新共同訳)

3:17 信仰によってあなたがたの心の内にキリストを住ませ、あなたがたを愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださるよう。

ガラ 2:20 (新共同訳)

2:20 生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。

エフェ 2:6 (新共同訳)

2:6 キリスト・イエスによって共に復活させ、共に天の王座に着かせてくださいました。

ヘブ 6:5 (新共同訳)

6:5 神のすばらしい言葉と来るべき世の力とを体験しながら、

に対して、そのように知らされてはいなかったのである。

3:6 それは、異邦人が、福音によりキリスト・イエスにあって、わたしたちと共に神の国をつぐ者となり、共に一つのからだとなり、共に約束にあずかる者となることである。

Ⅱコリ 5:15 (口語訳)

5:15 そして、彼がすべての人のために死んだのは、生きている者がもはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえったかたのために、生きるためである。

エペ 3:17 (口語訳)

3:17 また、信仰によって、キリストがあなたがたの心のうちに住み、あなたがたが愛に根ざし愛を基として生活することにより、

ガラ 2:20 (口語訳)

2:20 生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである。

エペ 2:6 (口語訳)

2:6 キリスト・イエスにあって、共によみがえらせ、共に天上で座につかせて下さったのである。

ヘブ 6:5 (口語訳)

6:5 また、神の良きみ言葉と、きたるべき世の力とを味わった者たちが、

木曜日 2月26日 福音の力

問6 コロサイ 1:28、29 を読んでください。パウロの焦点は何ですか。「すべての人」という言葉が繰り返されているのは、なぜだと思いますか。

パウロの宣教の焦点は、キリスト、しかも十字架につけられたキリストでした(Ⅰコリ 1:23)。エフェソ(エペソ) 5:27によると、キリストが犠牲となられた目的は、「しみやしわやそのたぐいのものは何一つない、聖なる、汚れのない、栄光に輝く教会

を御自分の前に立たせるためでした」〔口語訳「また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである」〕。したがって、パウロの福音宣教の目的は、「すべての人がキリストに結ばれて完全者となる」〔口語訳「彼らがキリストにあって全き者として立つようになる」〕(コロ 1:28)ことです。パウロはこれを、教えと諭し(警告〔口語訳:訓戒〕)によって行います。つまり、キリスト教の教理と実践のさまざまな点を教え(Ⅱテサ 2:15、Ⅰテモ 4:11、5:7、テト 1:9)、福音を拒絶した場合の結果と偽教師の危険性について諭した(警告した/訓戒した)のです(使徒 20:29~31、ロマ 16:17)。

こうして私たちは、聖書の教えを受け入れ、その警告に従うことによって、成熟した(完全な)クリスチャンに成長していきます。成熟は重要な概念です。生まれたばかりの赤ん坊を持つ親は、初めて言葉を発し、初めて歩き、初めて読んだことなど、あらゆる節目となる出来事を祝います。数年経っても自分の子どもが歩いたり、話したりできなかつたら、心配しない親がいるでしょうか。成長と発達は、正常なことであり、当然のことです。クリスチャン生活でも同じことが言えます。

「完全な(成熟した)」〔口語訳「全き」〕と訳されているギリシア語(「テレイオス」)は、完全に欠陥がないという意味です。クリスチャンとして成長する過程を通して、私たちは神の律法の深さと、その要求が「広大」〔口語訳「限りなく広い」〕(詩編〔詩篇〕 119:96)であることを痛感するようになります。私たちは、神の律法が「心の思いや考え」〔口語訳「心の思いと志」〕(ヘブ 4:12)にまで及ぶことを理解するのです。

しかし、私たちは注意する必要があります。パウロがコロサイ 1:28で「諭し(警告)」〔口語訳「訓戒」〕という言葉を使ったのは、そのためです。道が「まっすぐなようでも/果ては死への道となることがある」〔口語訳「自ら正しいとする道でも、その終りはついに死に至る道となるものがある」〕(箴言 14:12)のです。霊的識別力は、聖霊に導かれた神の言葉の知識からもたらされます。偽りの教えは、たいてい何らかの真理が含まれていますが、聖書の教えに何かを付け加えたり、取り除いたりしています(イザ 8:20 参照)。このような欺きは、神の言葉を真っ向から疑わせるとまではいかなくても、少なくとも、それが本当に可能かどうか、あるいは現代に適用できるかどうかを問うことによって、しばしば成功を収めます。教理上の真理と誤りを識別することに関しては、蛇のように賢く、鳩のように素直〔マタ 10:26 参照〕でなければなりません。

#### 【参考】英語テキストにある文

How do you understand what it means to be “perfect in Christ Jesus” (Col. 1:28)? How does an understanding of what Jesus accomplished for us at the cross help in knowing what it means to be “perfect in Christ Jesus”?

「キリストに結ばれて完全者となる」〔口語訳「キリスト・イエスにあって全き者……になる」〕(コロ 1:28)とはどういう意味だと理解していますか。十字架でイエスが私たちのために成し遂げられたことを理解することは、「キリストに結ばれて完全者となる」〔口

語訳「キリスト・イエスにあって全き者……になる」の意味を知る上で、どのように役立ちますか。

65

**コロ 1:28、29 (新共同訳)**

1:28 このキリストを、わたしたちは宣べ伝えており、すべての人がキリストに結ばれて完全な者となるように、知恵を尽くしてすべての人を諭し、教えています。

1:29 このために、わたしは労苦しており、わたしの内に力強く働く、キリストの力によって闘っています。

**I コリ 1:23 (新共同訳)**

1:23 わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えていきます。すなわち、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものですが、

**エフェ 5:27 (新共同訳)**

5:27 しみやしわやそのたぐいのものは何一つない、聖なる、汚れのない、栄光に輝く教会を御自分の前に立たせるためでした。

**II テサ 2:15 (新共同訳)**

2:15 ですから、兄弟たち、しっかり立って、わたしたちが説教や手紙で伝えた教えを固く守り続けなさい。

**I テモ 4:11 (新共同訳)**

4:11 これらのことを命じ、教えなさい。

**I テモ 5:7 (新共同訳)**

5:7 やもめたちが非難されたりしないように、次のことも命じなさい。

**テト 1:9 (新共同訳)**

1:9 教えに適う信頼すべき言葉をしっかり守る人でなければなりません。そうでないと、健全な教えに従って勧めたり、反対者の主張を論破したりすることもできないでしょう。

**使徒 20:29～31 (新共同訳)**

20:29 わたしが去った後に、残忍な狼どもがあなたがたのところへ入り込んで来て群れを荒らすことが、わたしには分かっています。

20:30 また、あなたがた自身の中からも、邪説を唱えて弟子たちを従わせようとする者が現れます。

20:31 だから、わたしが三年間、あなたが

**コロ 1:28、29 (口語訳)**

1:28 わたしたちはこのキリストを宣べ伝え、知恵をつくしてすべての人を訓戒し、また、すべての人を教えている。それは、彼らがキリストにあって全き者として立つようになるためである。

1:29 わたしはこのために、わたしのうちに力強く働いておられるかたの力により、苦闘しながら努力しているのである。

**I コリ 1:23 (口語訳)**

1:23 しかしわたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝える。このキリストは、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものであるが、

**エフェ 5:27 (口語訳)**

5:27 また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである。

**II テサ 2:15 (口語訳)**

2:15 そこで、兄弟たちよ。堅く立って、わたしたちの言葉や手紙で教えられた言伝えを、しっかりと守り続けなさい。

**I テモ 4:11 (口語訳)**

4:11 これらの事を命じ、また教えなさい。

**I テモ 5:7 (口語訳)**

5:7 これらのことを命じて、彼女たちを非難のない者としなさい。

**テト 1:9 (口語訳)**

1:9 教にかなった信頼すべき言葉を守る人でなければならぬ。それは、彼が健全な教によって人をさとし、また、反対者の誤りを指摘することができるためである。

**使徒 20:29～31 (口語訳)**

20:29 わたしが去った後、狂暴なおおかみが、あなたがたの中にはいり込んできて、容赦なく群れを荒らすようになることを、わたしは知っている。

20:30 また、あなたがた自身の中からも、いろいろ曲ったことを言って、弟子たちを自分の方に、ひっぱり込もうとする者らが出るであろう。

20:31 だから、目をさましていなさい。そ

た一人一人に夜も昼も涙を流して教えてきたことを思い起こして、目を覚ましていなさい。

**ロマ 16:17 (新共同訳)**

16:17 兄弟たち、あなたがたに勧めます。あなたがたの学んだ教えに反して、不和やつまずきをもたらす人々を警戒しなさい。彼らから遠ざかりなさい。

**詩 119:96 (新共同訳)**

119:96 何事にも終りと果てがあるのをわたしは見ます。広大なのはあなたの戒めです。

**ヘブ 4:12 (新共同訳)**

4:12 というのは、神の言葉は生きており、力を発揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髄とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分けることができるからです。

**箴 14:12 (新共同訳)**

14:12 人間の前途がまっすぐなようでも果ては死への道となることがある。

**イザ 8:20 (新共同訳)**

8:20 そして、教えと証しの書についてはなおのこと、「このような言葉にまじない力はない」と言うであろう。

**マタ 10:16 (新共同訳)**

10:16 「わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに羊を送り込むようなものだ。だから、蛇のように賢く、鳩のように素直になりなさい。

して、わたしが三年の間、夜も昼も涙をもって、あなたがたひとりびとりを絶えずさとしてきたことを、忘れないでほしい。

**ロマ 16:17 (口語訳)**

16:17 さて兄弟たちよ。あなたがたに勧告する。あなたがたが学んだ教にそむいて分裂を引き起し、つまずきを与える人々を警戒し、かつ彼らから遠ざかるがよい。

**詩 119:96 (口語訳)**

119:96 わたしはすべての全きことに限りあることを見ました。しかしあなたの戒めは限りなく広いのです。

**ヘブ 4:12 (口語訳)**

4:12 というのは、神の言は生きていて、力があり、もろ刃のつるぎよりも鋭くて、精神と靈魂と、関節と骨髄とを切り離すまでに刺しとおして、心の思いと志とを見分けることができる。

**箴 14:12 (口語訳)**

14:12 人が見て自ら正しいとする道でも、その終りはついに死に至る道となるものがある。

**イザ 8:20 (口語訳)**

8:20 ただ教とあかしに求めよ。まことに彼らはこの言葉によって語るが、そこには夜明けがない。

**マタ 10:16 (口語訳)**

10:16 わたしがあなたがたをつかわすのは、羊をおおかみの中に送るようなものである。だから、へびのように賢く、はとのように素直であれ。

**金曜日 2月20日 さらなる研究**

「私たちは……神の掟の要求に応じるほどの義を持ち合わせていません。けれどもキリストは、私たちのために逃れる道を備えてくださいました。……もしあなた自身をキリストにささげ、キリストを救い主として受け入れるならば、あなたの人生がこれまでいかに罪深いものであっても、彼のゆえに義とみなされるのです。キリストの品性があなたの品性のかわりとなり、神の前にまったく罪を犯したことのない者として受け入れられるのです。

それだけでなく、キリストは私たちの心も変えてくださいます。信仰によって、キリストは私たちの心の中に住まわれます。こうして、信仰と、絶えずキリストにみず

からの意志を従わせることによって、キリストとの関係を持続するのです。このようにする限り、キリストはあなたのうちに働いて、み旨に従って望み、行うことができるようにしてください。……

ですから、私たち自身のうちには何ら誇るどころがなく、自己を賞揚する何の根拠もありません。私たちの唯一の希望は、キリストの義が私たちの義とみなされることであり、それは、私たちのうちに働き、私たちを通して働いてくださる聖霊の働きによる以外にはないのです」(『キリストへの道』改訂第三版文庫版 87~89 ページ)。

「私に与えられた光が非常に強力なために、多くの人が誘惑の霊や悪霊の教えに心を引かれて、私たちのもとを離れるでしょう。主は、真理を信じると言うすべての人に対して、真理についての理性的な知識を持つように望まれます」(『伝道』下巻 18 ページ)

### 話し合いのための質問

- ① 今週の暗唱聖句を読み直してください(Ⅱコリ 5:21)。キリストが私たちのために罪となられたとは、どういう意味ですか。このことは、十字架の身代わりの性質を理解するうえで、いかが役に立ちますか。また、「その方によって神の義を得る」〔**口語訳**「彼にあって神の義となる」〕とは、どういう意味でしょうか。
- ② 多くのクリスチャンが、「一度救われたら、永遠に救われている」と信じています。なぜ私たちは、これが誤った教えであると信じているのでしょうか。この教えを信じる人には、どのような明らかな危険性がありますか。この教えを否定しながらも、私たちはいかにして救いの確信を持つことができますか。
- ③ あなたの信仰は、どれほど「ゆるぐことがなく、しっかり」(コロ 1:23、**口語訳**)したものでしょうか。自分が何を信じ、なぜそれを信じているのかを、どれほどよく理解しているのでしょうか。自分が信じていることをより深く知るために、何ができるでしょうか。また、信仰において「ゆるぐことがなく、しっかり」することは、なぜ重要なのでしょうか。

66

#### Ⅱコリ 5:21 (新共同訳)

5:21 罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪となさいました。わたしたちはその方によって神の義を得ることができたのです。

#### コロ 1:23 (新共同訳)

1:23 ただ、揺るぐことなく信仰に踏みとどまり、あなたがたが聞いた福音の希望から離れてはなりません。この福音は、世界中至るところの人々に宣べ伝えられており、わたしパウロは、それに仕える者とされました。

#### Ⅱコリ 5:21 (口語訳)

5:21 神はわたしたちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされた。それは、わたしたちが、彼にあって神の義となるためなのである。

#### コロ 1:23 (口語訳)

1:23 ただし、あなたがたは、ゆるぐことがなく、しっかりと信仰にふみとどまり、すでに聞いている福音の望みから移り行くことのないようにすべきである。この福音は、天の下にあるすべての造られたものに対して宣べ伝えられたものであって、それにこのパウロが奉仕しているのである。